家庭学習　川村久夫

○ ふんいきを作る、(みんなで本を読んだり)

○ みとめる (よくできたね) 自尊心を傷つけない。

行平(子供から見て)
たかのぞみ(通り.)

やさしい 救急法

到達度評会

―― 城陽市立久津川小学校育友会 ――

☆ 救急法とは

- 医師の手当を受けるまでの応急手当である。
- 救急者の責任は、患者を医師に渡したとき終る。

（どんなときでも必らず、医師の手当を受けることが大切です。これからのべる救急法は最後には、医師の手当をうけることを前提にしています。）

☆ 救急法の目的

- 人命を救う。
- 患部の痛みを早くとり除く。
- 患部の悪化を防止する。
- ショックを防止する。

☆ 救急法を普及する理由

- 事故や急病が非常に多いから。
- 人命を救うためには、正しい応急手当をする必要があるから。
- 必要な時、必要な処置が出来るよう訓練するため。
- 訓練によって自信をつける。

（好意からした手当も方法を誤れば、却って悪い結果をもたらす。）

☆ 応急手当の注意

- 誤った手当をすることは、何も手当をしない場合より患者を悪化させることが多い。
- 傷は全部知り手当の順位を判断する。
- ひどい事故のときは、本人の意識の有無を調べる。
- 本人に意識のないときは、頭に損傷があるかも知れない。

出血、呼吸停止、服毒、ひどいショックがあるときは寸刻を争って手当をすること。

☆ 医師や救急隊への連絡

- 場所、原因、状態、傷の程度、負傷者数。
- どんな手当をしているか、どんな使用物があるか連絡する。
- 医師、救急隊の到着まで、どんなことをすればよいか指示をうける。
- 連絡方法（電話番号など）を報告する。
- 家族や関係者にも連絡する。

△ 重要事項

いかなる場合においても、最終的には医師の手当を受けることを忘れてはいけない！

☆　患者の安静

o　適当な体位をとらせる。

(1)　水平仰臥位（あおむけ）
　多くの傷があるとき。
　手、足に傷があるとき。
　その他、一般的な体位

(2)　膝屈曲仰臥位（あおむけで膝をまげる）
　腹に傷があるとき。

(3)　足高仰臥位（あおむけで足を高く）
　ショックのとき。
　多くの出血があるとき。
　頭に傷があるときはいけない。

(4)　頭高仰臥位（あおむけで頭を高く）
　頭、胸に傷があるとき。

(5)　横臥位（よこむけ）
　顔、口に傷があるとき。
　吐きけのあるとき。
　意識がないとき。

(6)　腹臥位（はらばい）
　意識がないとき。

(7)　半座位
　心臓衰弱のとき。
　ぜんそく発作。
　呼吸困難、息ぎれのあるとき。

(8)　座　位
　(7)と同じ
　前に毛布などを抱かせると楽になる。

☆　患者の保温

o　原則として人工的熱は加えない。
o　毛布などでくるみ、本人の体温を保つ。
o　もし、湯タンポを入れるときは頬にあてられる位の温度のものを、布にくるんであてる。
o　地面への放熱を防ぐ。

☆ 患者と飲み物

- o 原則として飲み物を与えない。
- o 熱傷のときは与えてもよい。
- o 絶対に与えてはいけないもの

(1) 意識がないとき。　(3) 内臓に傷があるとき。

(2) 吐き気、しゃっくりがあるとき。　(4) すぐ医師の手当が受けられるとき。

▽ 上記以外の場合で本人が、どうしてもほしがるときは茶さじで少しづつ与えるか、ガーゼに含ませて吸わせる。

▼ アルコール類は与えてはいけない。

☆☆ 応急手当の重要事項

応急手当で最も大切なことは蘇生である。

優先して行なわなければならないこと。

(1) 呼吸の確保　(3) 毒物中毒の手当

(2) 出血の防止　(4) ショックの手当

☆ 入工呼吸

- o 酸素は体の細胞になくてはならないものであり、血液によって運ばれる。
- o 呼吸の回数は大人で、1分間で16～18回、子供は少し早い。
- o 呼吸が止まると10分以内で殆んどが死亡する。

▼ 呼吸の確かめ方

- o 胸がふくらんだり縮んだりするのを手を当てゝ確かめる。
- o 鼻や口の呼吸音をきく。

▼ 実施上の留意点

- o 寸刻を争って実施する。
- o 気道を確保する。
- o 効果のあるように行なう。
- o 根気よく続ける（医師の死亡確認まであきらめない。）
- o 一定のリズムを保って行なう。

大　人 ｝ 1分間に10回～12回

子　供 ｝ 1分間に15回～20回

▼ 実施方法

口うつし法
ニールセン法　実技指導による。

- o 胸部損傷のときは、腕をひっぱるだけにする。
- o 腕を損傷しているときは背中を押すだけにする。
- o 口うつし法をしてはいけないもの。

(1) 伝染病患者の場合　(3) 有毒ガス中毒の場合

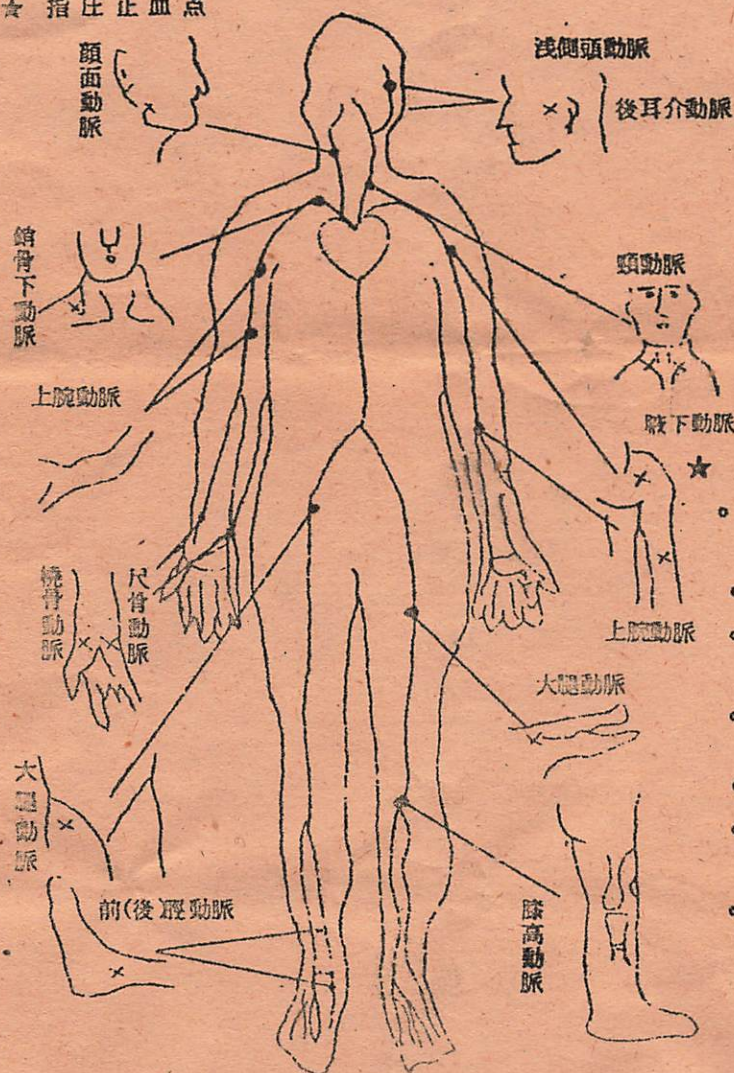
(2) 毒物中毒の場合

☆ 出血について

- 通常、人は体重１Kgにつき約８０ccの血液をもつ。
- 血液の２０％が出血すると軽いシヨック状態。
- 血液の３０～４０％が出血すると重いシヨック状態。
- 血液の４０～５０％が出血すると致死。
- 同量の出血でも短時間の出血ほど危険。

☆ 止血法

- 傷口をガーゼなどで押える。（直接圧迫法）
- 傷のあるところを心臓より高く上げる。（患部高揚）
- 傷口より心臓に近い所で動脈を指で押える。（指圧止血法）
- 止血帯をする。

☆ 指圧止血点

☆ 止血帯を使用するときの心得

- 危険であるから最後の手段として使うこと。
- ５cm位の広さのものを使う。
- 直接傷にふれないようにして傷の近くでする。
- 出血が止まったらそれ以上しめない。
- 医師が来るまでゆるめない。
- いつも外から見えるようにしておく。
- 止血した時刻を書いた札をつけておく。

☆ シヨック

いろいろな原因のために全身の末梢の血液循環が悪くなり、体全体が弱った状態

症　状

- 気分が悪くなる。
- 目はうつろで、輝きがなくなる。
- 顔色、唇、手足の皮ふの色が悪くなる。
- 手足が冷い。
- 額や手足に冷汗が出る。

さらに進むと

- 吐き気、嘔吐
- 瞳孔が大きくなる。
- 脈は速くて弱くなる。
- 呼吸は浅く速く、不規則になる。
- ついには死亡することもある。

手　当

- 正しい体位をとらせる。
- 苦痛を長びかせない。
- 出血を防止する。
- 安静にする。
- 保温する。

☆ 創　傷（きず）

○ きずの種類

擦過傷	刺　創	射　創
打撲傷	裂　傷	爆　傷
切　創	挫　傷	咬　傷

手　当

▽ 出血が少ないとき

- まず手を洗う
- 傷の部分を水道の水で洗い流す。
- さし傷の場合は傷を痛めぬようにして血を押し出す。
- 消毒ガーゼなどを当てる。
  包帯する。

▽ 出血が多いとき

- 急いで止血する。
- シヨックを防止する。

★ 感染

- 傷口が赤くなる。
- 腫れてくる。
- 患部があつくなる。
- 痛みを感じる。
- 化膿してくる。
- リンパ節が腫れて痛む。
- 全身に熱が出て頭痛、吐き気がする。

★ 破傷風

- 破傷風菌は主として土の中にいる。
- 土砂で汚れた傷などから起こりやすい。
- 潜伏期は3〜4週間
- 口が開きにくくなり、全身にけいれんが起る。
- 死亡率の高い恐ろしい病気である。
- どんな傷でも医師の手当を受ける必要がある。

☆ 骨折

骨接の有無は判断しがたいが、一般的な症状は、

- その部分が腫れる。
- 内出血があると紫色をしている。
- 動かすと痛みが強くなる。
- ひどい骨接のときは、その部分が曲っている。
- 開放骨折のときは、傷口に骨の端が見える。

手当

- 折れた部分は静かに固定する。
- 骨接部の上下の関節を固定する。
- ショックがあればすぐその手当をする。
- 開放骨接であれば傷の手当を先にする。
- 固定には適当な副木を用いる。

★捻挫

症状

○ 瞬間に激しい痛みを感じる。

○ だんだん腫れてくる。

○ 内出血があると紫色になる。

○ 関節をくじいた方向と反対に曲げると痛む。

○ 動かすと痛む。

○ 骨折が復合していることがある。

手当

○ 患部を冷やす。

○ 患部を動かさぬようにする。

○ 固定する。

○ 骨折があるときは、その手当をする。

★脱臼

症状

● 急に痛む。

● 関節の形が変っている。

● 普通でない所に骨が出てる。

手当

● 指のときは、脱臼している指の先をつまみ根元の方を一方の手で固定し、一気に強く手前に引いて元にもどす。

● 無理に整復しようとしてはいけない。

★ 頭のきづ

症状

● 意識がすぐなくなるときと、始めは意識があるが、後から意識がなくなるときとがある。

● 意識不明が長い程重症である。

● 吐き気、嘔吐、けいれん、まひ、発熱、失禁、瞳孔不同、のときは早く専門医の診断を受けること。

手当

○ 意識不明のときは、柔かい枕で頭を少し高くし、氷のうでどんどん冷やす。

○ 体を温めすぎないこと。

○ 衣服を解いて楽にしてやる。

○ 頭は横向けにして気道を確保する。

○ 動揺を少なくする。

○ 頭を強打したときは、2日以上安静を要す。

★ やけど

- 炎や電気でのやけどは深い傷が多い。
- 湯タンポのような長時間作用したやけどは傷が深い。

程度

第1度　表皮だけの傷で赤くなり、ヒリヒリ激しく痛む。

第2度　真皮に傷ができ、水泡になり、痛みが強くなる。

第3度　皮下組織や筋肉にもおよぶ傷で組織が黒褐色になって死滅する。

- 皮ふ全面の５０～６０％のやけどになると重態

手当

- 皮ふの２０％以内であれば、きれいな水で冷やす。
- 衣服を無理にはがさないこと。
- 水泡は破らないこと。
- 指輪、時計などは腫れないうちに取る。
- ショックの手当をする。
- 医師の手当を３０分以内に受けられないときは食塩水か、重曹水を１５分ごとにコップ半杯づつのませる。
- まず、冷やすことが大切である。
- 薬品によるやけどのときは、急いで洗い落す。

☆ 皮ふの広さ

部　位	大　人	子　供
くびから上	９％	２０％
胸　腹	１８％	１５％
背　中	１８％	１５％
上　肢	各　９％	各１０％
下　肢	各１８％	各１５％
陰　部	１％	

☆ 犬、猫、ねずみに噛まれた傷

- 多量の流水と石けんで傷の上を静かによく洗う。傷をいためぬよう注意する。
- 傷の表面についている唾液を清潔なガーゼで良くふきとる。（ヨードチンキをぬる）
- 清潔なガーゼでおおっておく。
- 犬に噛まれたときは、その犬をつかまえ保健所で検査を受ける。
- 犬が狂犬病であることが判ったら、予防注射をする。
- 必らず医師の手当を受ける。

★ 毒蛇に噛まれた傷

症　状

- かまれた手、足、全体がみるみるうちに腫れる。
- 傷の周囲は紫色に変ってくる。
- 皮下出血・血尿・腹痛が起る。

手　当

- 傷より心臓に近いところをしばる。
- 安静にする。
- 傷口に口をあて強く吸って毒を吸い出して吐く（何回もくり返す）
- ナイフやメスの先を炎で消毒し、傷のところを長さ5㎜、深さ5㎜程度に※形に切り、そこから毒を吸い出して吐く。

☆ 虫にさされた傷

- ハチ、ムカデ、クモに刺されたときは針が残っていれば抜く。
- 傷口に口をあて毒を吸い出す。
- 石けんと水でよく洗う。
- 冷水に２０～３０分浸す。

☆ ガス中毒

- 呼吸を保つ。
- 早く酸素呼吸（吸入）をする。
- 手足を心臓の方に向ってマッサージする。
- 安静にする。

救助するときの注意

- 救助者がガス中毒にかからぬよう注意すること。
- 有毒ガスの場合は口うつし法の人口呼吸をしてはいけない。

★ 毒物中毒

- 一刻も早く胃の中の毒をうすめる。
- 胃の中の毒物を吐き出させる。
- 呼吸が弱ったり、止っていたら人口呼吸をする。
- 保温をする。

★ 食中毒

- すぐに水をのんで吐くことをくり返す。
- 早く食べた物を出す。

☆ 日やけ

程度

第1度　赤くなる。

第2度　水泡、表皮がむける。

手当

- 冷水で冷やす。
- コールドクリーム、ワセリンをぬる。
- 重曹水で湿布する。
- 頭痛、発熱のときは、日射病の手当をする。

☆ 日（熱）射病

症状

- 皮ふが熱く乾いてくる。
- 顔が赤くなる。
- 早い脈が大きく打つ。
- 体温が非常に上昇する。
- 頭痛がする。
- めまいがする。
- 吐き気がある。
- ひどければ意識不明になる。

手当

- 涼しい所にねかせる。
- 衣服をぬがす。
- 頭を高くする。
- 足の方から上体に徐々に水で冷やす。

☆ 熱疲労（ヒートイクゾーション）

症状

- 顔面蒼白
- 気分が悪くなる。
- 手足が冷たくなる。
- 吐き気、発汗
- 体温は普通、低いこともある。
- めまい、頭痛がする。
- 意識を失うことは少ない。
- 体が、ぐったりなる。

手当

- 静かにねかせる。
- 頭は低く、足を高くする。
- １５分ごとにコップ半分の水に食塩を茶さじ半分をとかし４～５回のませる。
- 精神的に安心させてやる。

☆ 凍傷

程度

- 第1度　赤くなり腫れる、かゆい。
- 第2度　水泡が出来る。痛い。
- 第3度　かいようが出来る。
- 第4度　黒くなる（壊死する）

手当

- 傷が出来やすいからこすらない
- 手袋、靴下、などを静かにとる。
- 足に出来たときは歩かせない。
- 火などで急に暖めない。
- 体温位のぬるま湯にひたす。
- 暖まってから軽く指の運動をする。

☆ 脳溢血

症状

- 顔が赤くなっていることが多い。
- 脈は大きく遅い。
- 呼吸は大きく深くなる。（いびきをかく）
- 手、足がまひすることがある。
- よだれを流していることがある。
- 発熱、発汗の多いときは重い。

手当

- 絶対安静にする。
- 頭を高くしてねかせる。
- よだれが出ているときは顔を横向けにする。
- 頭を冷やす。

☆ 脳貧血

症状

- 急にめまいがして、倒れることがある。

手当

- 顔面蒼白のときは、足の方を少し高くしてねかせる。
- 気がついたら番茶、紅茶、コーヒなどをのませる。
- 目まいを起しそうになったら、頭が下げられるような姿勢（靴のひもを結ぶような姿勢）をとるか、すぐ横にねる。

☆ のどの異物

- o 咳、嘔吐をもようさせ吐き出させる。
- o うつ伏せにして、腹部に当てものをし背中を強くたたき続ける。
- o 指で取ろうとするとかえって、押し込むおそれがある。

☆ 目の異物

- o 絶対に目をこすってはいけない。
- o 軽く瞼を閉じて涙で流す。
- o きれいな水の中で瞼をパチパチさせて洗う。
- o 上瞼を下瞼の上に2～3度引ぱってかぶせてはなす。
- o 綿棒の先に脱脂綿を巻き水でぬらし瞼を開いて異物を拭きとる。
- o 薬品により眼球を火傷したときはきれいな水でよく洗うこと。

☆ 耳の異物

▽水などが入った場合

- o 入った方の耳を下にし、自然に流れるようにする。
- o 綿棒やコヨリなどで拭きとろうとするとかえって悪化させることがある。

▼ 虫が入った場合

- o 電灯などで光を耳に近づける。
- o オリーブ油などを耳に入れて虫を殺したのちピンセットでつまみ出す。

☆ 中垂炎

症　状

- o みずおちの痛み、吐き気、悪感がある。
- o へその付近から右下腹部が痛む
- o 便秘するときと、軽い下痢をするときとがある。
- o 右下腹部を押えると痛い。
- o 上向きにねて足をのばすと右下腹部に痛みが増すことが多い。

手　当

- o 膝を曲げて静かに横にねかせる。
- o 右下腹部を冷やす。

注　意

- o 痛みが和らいでも治った訳ではない。
- o ヒマシュなど、下剤をのんではいけない。
- o 不用意に温めてはいけない。

☆ ひきつけ

- o けがをしないよう周囲の危険物をとり除く。
- o 舌をかまないよう、ガーゼ、ハンカチなどを棒に巻いて上下の歯の間にはさむ。
- o 衣服をゆるめ、室内をうす暗くする。
- o 吐き気のあるときは横向きにねかせる。
- o 安静にする。

★ てんかん

- 無理に抱いて、けいれんをしづめようとしてはいけない。
- 周囲の危険物をとり除く。
- 舌をかまないよう、ガーゼ、ハンカチを棒に巻いて上下の歯の間にはさむ。
- けいれんが終れば衣服をゆるめ楽にしてやる。
- 気道を確保する。
- 吐き気のあるときは半伏せにねかせる。
- 意識がもどって本人にその事をいったり、たづねたりしてはいけない。

★ 歯のいたみ

- ヨードチンキを小さな綿にしませてそれを歯の穴の中に入れる。
- ヨードチンキのないときは、ウイスキーを使う。
- クレオソート丸をつぶして歯の穴に入れる人があるがこれはいけない。

★ 吐血と喀血

吐 血

- 消化器の傷により出血し、口から血を吐く。
- 食べ物が混じる。
- 黒褐色である。

喀 血

- 呼吸器系の臓器から出血し、口から血を吐く。
- あわが混じる。
- 鮮紅色である。

手 当

- 頭を低くして脳の貧血を防ぐ。
- 血液で気管を塞がぬように横向きか半伏せにねかせる。
- 吐血のときは、胃部を冷やすと気分がよくなる。
- ショック状態のときは、その手当をする。

注 意

- あわてずに手当をする。
- 吐いたものは取っておいて医師に見せる。